

# 第40回豊島廃棄物等管理委員会次第

日時 平成28年3月27日(日) 13:00~  
場所 ルポール讃岐 2階 大ホール

## I 開会

## II 審議・報告事項

- 1 豊島廃棄物等処理事業の実施状況
  - (1) 豊島廃棄物等処理事業の実施状況(報告)
  - (2) 豊島廃棄物等処理事業の原単位表等(報告)
- 2 豊島廃棄物等処理事業年度計画等
  - (1) 平成28年度事業計画の変更と追加(審議)
  - (2) 平成28年度における各種調査の実施方針(審議)
  - (3) 鉄助剤の混合溶融試験計画(報告)
- 3 第21回及び第22回豊島処分地排水・地下水等対策検討会の審議概要(報告)
- 4 処分地の掘削及び維持管理等
  - (1) 電磁法探査による底面掘削の完了確認方法(審議)
  - (2) ドラム缶内容物の処理(審議)
- 5 中間処理施設等の定期点検整備結果等
  - (1) 中間処理施設の最近のトラブルと対策(報告)
  - (2) 中間処理施設の定期点検整備結果等(報告)
  - (3) 高度排水処理施設の定期点検整備結果(報告)
- 6 副成物の有効利用
  - (1) 溶融スラグコンクリートを使用した構造物の調査(報告)
  - (2) 溶融スラグの品質試験結果(報告)
- 7 豊島廃棄物等処理事業の今後の主な工事等の概要
  - (1) 豊島廃棄物等処理事業の今後の主な工事の概要(審議)
  - (2) 豊島廃棄物等処理事業の今後の主な調査等の概要(審議)
- 8 豊島廃棄物等処理事業に係る外部評価
  - (1) 業務報告書(素案)(審議)
  - (2) 指摘・改善案とそれに対する改善方針等(審議)
- 9 その他
  - (1) 環境計測及び周辺環境モニタリング結果(報告)
  - (2) 各種マニュアルの見直し(審議)
  - (3) 緊急時等の報告(正式評価)(報告)
  - (4) 健康管理委員会の審議概要(報告)

## III 閉会

## 豊島廃棄物等処理事業の実施状況(平成 28 年 2 月末まで)

# 1. 豊島廃棄物等の処理量について

## ① 豊島廃棄物等の処理量

平成28年2月までの豊島廃棄物等の処理実績は、下表1-1及び1-2のとおりである。なお、直島の一般廃棄物は除いている。

表 1-1 (平成15~27年度)

(単位:t)

廃棄物等処理実績

区分	15年度		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	試運転～ 26年度 小計	27年度 4～2月 小計	累計(暫定) 平成28年2月 末まで					
	試運転 (4月～ 9月17日)	本格稼働後 (9月18日 ～3月)																			
処理計画 ①	-	35,420	60,000	60,000	60,000	62,500	62,000	71,560	71,097	71,713	71,785	73,711	64,629	764,415	59,360						
溶融炉処理計画		35,420	60,000	60,000	60,000	62,500	59,000	63,860	64,890	65,625	67,470	68,083	60,040	726,888	54,280						
(うち、直下土壌)														(3,700)	(186)						
キルン炉処理計画							3,000	7,200	6,000	5,980	4,200	5,499	4,326	36,205	4,845						
岩石等特殊前処理計画								500	207	108	115	129	263	1,322	235						
年間処理実績(中間処理) ②	14,629	11,979	53,079	53,945	52,197	54,210	60,504	70,015	74,742	70,719	70,695	76,370	67,477	730,561	63,143	793,705					
溶融炉処理実績	14,539	11,933	52,243	53,186	51,261	53,183	58,983	66,130	68,653	65,181	65,057	71,385	60,984	692,718	57,208	749,926					
(うち、直下土壌)														(274)	(274)	(538)					
キルン炉処理実績	90	46	836	759	936	1,027	1,521	3,885	6,089	5,538	5,638	4,985	6,493	37,843	5,936	43,779					
うち、仮置土処理実績							(621)	(2,690)	(4,410)	(3,634)	(3,815)	(2,565)	(4,157)	(21,892)	(2,033)	(23,925)					
岩石等特殊前処理 ③	10	63	219	81	24	17	93	138	201	276	257	705	980	3,063	774	3,838					
処理量合計 ④=②+③	14,639	12,042	53,298	54,026	52,221	54,227	60,597	70,153	74,943	70,995	70,952	77,075	68,457	733,625	63,918	797,543					
溶融炉処理量/溶融炉処理計画量	74.7%		87.1%	88.6%	85.4%	85.1%	100.0%	103.6%	105.8%	99.3%	96.4%	104.8%	101.6%	95.3%	105.4%	96.0%					
キルン炉処理量/キルン炉処理計画量	-						50.7%	54.0%	101.5%	92.6%	134.2%	90.7%	150.1%	104.5%	122.5%	106.6%					
処理量合計④/処理計画量①	75.3%		88.8%	90.0%	87.0%	86.8%	97.7%	98.0%	105.4%	99.0%	98.8%	104.6%	105.9%	96.0%	107.7%	96.8%					
処理量合計④/全体量(859,391t)	3.1%		6.2%	6.3%	6.1%	6.3%	7.1%	8.2%	8.7%	8.3%	8.3%	9.0%	8.0%	85.4%	7.4%	92.8%					
掘削量(m <sup>3</sup> )						315,159								41,762	57,181	52,750	46,245	513,097	※ 32,194	545,291	
密度(t/m <sup>3</sup> )						1.42								1.70	1.24	1.47	1.48	1.43	※ 1.68		
直下汚染土壌処理実績(セメント原料化処理に限る。)																					
処理計画 ⑤																					
直下土壌等委託処理実績 ⑥													6,000	7,500	23,800	37,300	12,350				
処理量合計⑥/処理計画量⑤													647	3,579	2,598	6,824	1,946	8,771			
処理量合計⑥/全体量(17,605t)													10.8%	47.7%	10.9%	18.3%	15.8%	17.7%			
掘削量(m <sup>3</sup> )													3.7%	20.3%	14.8%	38.8%	11.1%	49.8%			
密度(t/m <sup>3</sup> )													385	2,130	1,342	3,857	978	4,835			
特殊前処理物等委託処理実績																					
特殊前処理物等委託処理実績 ⑦																					
全体処理実績																					
処理計画(全体) ⑧=(①+⑤)	0	35,420	60,000	60,000	60,000	62,500	62,000	71,560	71,097	71,713	77,785	81,211	88,429	801,715	71,710						
処理量合計 ⑨=(④+⑥+⑦)	14,639	12,042	53,298	54,026	52,221	54,227	60,597	70,153	74,943	70,995	71,599	80,654	71,055	740,449	66,061	806,511					
合計⑨/処理計画量⑧	75.3%		88.8%	90.0%	87.0%	86.8%	97.7%	98.0%	105.4%	99.0%	92.1%	99.3%	80.4%	92.4%	92.1%	92.3%					
合計⑨/全体量(901,622t)	3.0%		5.9%	6.0%	5.8%	6.0%	6.7%	7.8%	8.3%	7.9%	7.9%	8.9%	7.9%	82.1%	7.3%	89.5%					
掘削量(m <sup>3</sup> )						315,159								41,762	57,566	54,880	47,587	516,954			

- 平成27年度の処理量は、直島一般廃棄物受入量のデータに前年度実績を使用しているため、暫定の数値である。
- 直下土壌等処理には、重金属のみに汚染された覆土を含む。
- 直下土壌等処理のうち、中間処理施設にて溶融処理を要するダイオキシン等が完了判定基準を超過した汚染土壌は中間処理の溶融炉処理計画及び実績に含む。
- 全体処理実績の全体量(901,622t)には、直下汚染土壌のうち地下水浄化対象土壌(24,626t)を含む。
- 直下汚染土壌のうち地下水浄化対象土壌(24,626t)を除いた全体処理状況は、平成28年2月末現在、92.0%となる。

※廃棄物等処理実績の平成27年度4～2月(小計)の掘削量及び密度は、平成27年度の12月26日までのGPS測量結果に基づく数値である。

表 1-2 (平成27年度)

(単位:t)

廃棄物等処理実績

区分	試運転～ 26年度 小計	27年度														累計(暫定) 平成28年2月末 まで
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4～2月 小計		
処理計画 ①	764,415	5,448	6,201	5,380	5,853	5,425	6,291	6,160	5,664	5,489	1,763	5,686	5,281	59,360		
溶融炉処理計画	726,888	4,968	5,704	4,968	5,336	4,928	5,760	5,664	5,184	4,992	1,604	5,172	4,784	54,280		
(うち、直下土壌)	(3,700)	-	-	-	-	-	-	(186)	-	-	-	-	-	(186)		
キルン炉処理計画	36,205	459	476	391	493	476	510	476	459	476	136	493	476	4,845		
岩石等特殊前処理計画	1,322	21	21	21	24	21	21	20	21	21	23	21	21	235		
年間処理実績(中間処理) ②	730,561	6,610	6,532	5,487	5,890	5,305	5,717	6,525	6,763	6,347	1,444	6,522		63,143	793,705	
溶融炉処理実績	692,718	5,974	5,931	5,025	5,283	4,768	5,175	5,893	6,167	5,794	1,244	5,954		57,208	749,926	
(うち、直下土壌)	(274)	-	-	-	-	-	-	(264)	-	-	-	-		(264)	(538)	
キルン炉処理実績	37,843	636	602	462	607	537	542	632	596	554	201	568		5,936	43,779	
うち、仮置土処理実績	(21,892)	(349)	(312)	(228)	(143)	(269)	(147)	(194)	(139)	(72)	(50)	(129)		(2,033)	(23,925)	
岩石等特殊前処理 ③	3,063	72	84	74	53	71	65	111	69	92	21	61		774	3,838	
処理量合計 ④=②+③	733,625	6,682	6,617	5,561	5,943	5,376	5,783	6,637	6,832	6,439	1,466	6,583		63,918	797,543	
溶融炉処理量/溶融炉処理計画量	95.3%	120.3%	104.0%	101.1%	99.0%	96.8%	89.9%	104.0%	119.0%	116.1%	77.6%	115.1%		105.4%	96.0%	
キルン炉処理量/キルン炉処理計画量	104.5%	138.6%	126.4%	118.0%	123.2%	112.8%	106.2%	132.7%	129.9%	116.3%	147.4%	115.2%		122.5%	106.6%	
処理量合計④/処理計画量①	96.0%	122.6%	106.7%	103.4%	101.5%	99.1%	91.9%	107.7%	120.6%	117.3%	83.1%	115.8%		107.7%	96.8%	
処理量合計④/全体量(859,391t)	85.4%	0.8%	0.8%	0.6%	0.7%	0.6%	0.7%	0.8%	0.8%	0.7%	0.2%	0.8%		7.4%	92.8%	
掘削量(m <sup>3</sup> )	513,097	→	→	→	12,509	→	→	11,591	→	8,094	-	-		※ 32,194	545,291	
密度(t/m <sup>3</sup> )	1.43	→	→	→	1.82	→	→	1.35	→	1.94	-	-		※ 1.68		
直下汚染土壌処理実績(セメント原料化処理に限る。)																
処理計画⑤	37,300	0	650	0	1,300	1,950	1,950	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,950	12,350		
直下土壌等委託処理実績 ⑥	6,824	-	648	-	-	-	-	-	-	648	-	650		1,946	8,771	
処理量合計⑥/処理計画量⑤	18.3%	-	99.7%	-	-	-	-	-	-	49.9%	-	50.0%		15.8%	17.7%	
処理量合計⑥/全体量(17,605t)	38.8%	-	3.7%	-	-	-	-	-	-	3.7%	-	3.7%		11.1%	49.8%	
掘削量(m <sup>3</sup> )	3,857	-	270	-	-	-	-	-	-	354	-	355		978	4,835	
密度(t/m <sup>3</sup> )	1.77	-	2.41	-	-	-	-	-	-	1.83	-	1.83		1.99		
特殊前処理物等委託処理実績																
特殊前処理物等委託処理実績 ⑦	-	-	-	-	-	5	37	47	9	34	34	31		197	197	
全体処理実績																
処理計画(全体) ⑧ (①+⑤)	801,715	5,448	6,851	5,380	7,153	7,375	8,241	7,460	6,964	6,789	3,063	6,986	7,231	71,710		
処理量合計 ⑨ (④+⑥+⑦)	740,449	6,682	7,265	5,561	5,943	5,381	5,820	6,684	6,841	7,121	1,500	7,263		66,061	806,511	
合計⑨/処理計画量⑧	92.4%	122.7%	106.0%	103.4%	83.1%	73.0%	70.6%	89.6%	98.2%	104.9%	49.0%	104.0%		92.1%	92.3%	
合計⑨/全体量(901,622t)	82.1%	0.7%	0.8%	0.6%	0.7%	0.6%	0.6%	0.7%	0.8%	0.8%	0.2%	0.8%		7.3%	89.5%	
掘削量(m <sup>3</sup> )	516,954															

1)平成28年1月の処理計画量は、直島中間処理施設の定期点検整備のため少なくなっている。

※廃棄物等処理実績の平成27年度4～2月(小計)の掘削量及び密度は、平成27年度の12月26日までのGPS測量結果に基づく数値である。

## ②中間処理施設処理分 搬出量、積込量及び輸送量

平成28年2月までの掘削現場からの搬出量、中間保管・梱包施設での積込量及び陸上・海上輸送量の実績は、下表2-1及び2-2のとおりである。  
 なお、中間処理施設における処理状況に対応して搬出量を調整した。

表 2-1 (平成15~27年度)

(単位:t)

区分	15年度		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	試運転~ 26年度 小計	27年度 4~2月 小計	累計 28年2月末 まで	
	試運転 (4月~ 9月17日)	本格稼働後 (9月18日 ~3月)															
処理計画量	-	35,420	60,000	60,000	60,000	62,500	62,000	71,560	71,097	71,713	71,785	73,711	64,629	764,415	59,125	823,540	
実績	掘削現場からの搬出量	16,831	10,420	46,900	51,020	49,800	53,746	62,910	70,002	71,506	70,438	72,190	77,396	64,242	717,401	66,006	783,408
	うち、仮置土搬出量	-	-	-	-	-	-	(1,850)	(4,147)	(5,010)	(4,438)	(5,130)	(3,260)	(4,817)	(28,652)	(2,090)	(30,742)
	積込量	15,253	11,213	49,917	51,870	50,090	53,191	60,354	69,351	71,858	69,496	72,787	78,199	63,979	717,558	63,286	780,844
	うち、仮置土積込量	-	-	-	-	-	-	(699)	(2,661)	(4,446)	(3,581)	(4,207)	(2,562)	(4,039)	(22,195)	(2,133)	(24,328)
	輸送量	15,147	11,200	49,820	51,817	50,031	53,281	60,346	69,284	71,956	69,535	72,739	78,038	64,237	717,431	62,556	779,987
	うち、仮置土輸送量	-	-	-	-	-	-	(698)	(2,660)	(4,557)	(3,578)	(4,204)	(2,557)	(4,019)	(22,273)	(2,122)	(24,395)

- 1) 掘削現場からの搬出量とは、掘削現場で廃棄物等をトラックに積み込む際に、トラクタショベルに取り付けた重量測定装置で計量したものである。
- 2) 積込量とは中間保管・梱包施設でダンプトラックに積込時にトラックスケールで計量したもので、輸送量とは中間処理施設の受入ピットのトラックスケールで計量したものである。
- 3) 仮置土搬出量、積込量、輸送量とは、ロータリーキルン炉で高温熱処理するために搬出、積込、輸送した仮置土の数値(量)である。

表 2-2 (平成27年度)

(単位:t)

区分	試運転~ 26年度 小計	27年度														累計 28年2月末 まで
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4~2月 小計		
処理計画量	764,415	5,427	6,180	5,359	5,829	5,404	6,270	6,140	5,643	5,468	1,740	5,665	5,260	59,125	823,540	
実績	掘削現場からの搬出量	717,401	6,638	6,541	5,299	6,177	4,208	6,490	5,654	7,051	6,562	5,991	5,395		66,006	783,408
	うち、仮置土搬出量	(28,652)	(290)	(300)	(260)	(190)	(0)	(420)	(350)	(0)	(280)	(0)	(0)		(2,090)	(30,742)
	積込量	717,558	6,725	6,134	5,885	5,906	4,771	5,804	6,278	6,705	6,583	2,147	6,348		63,286	780,844
	うち、仮置土積込量	(22,195)	(455)	(288)	(231)	(167)	(203)	(195)	(222)	(174)	(0)	(0)	(196)		(2,133)	(24,328)
	輸送量	717,431	6,683	6,109	5,856	5,902	4,753	5,922	6,107	6,675	6,185	1,996	6,369		62,556	779,987
	うち、仮置土輸送量	(22,273)	(452)	(287)	(230)	(167)	(202)	(194)	(221)	(174)	(0)	(0)	(195)		(2,122)	(24,395)

③直下土壌等 島外処理搬出量、輸送量、処理量等

平成 28 年 2 月までの掘削現場からの搬出量、積替施設からの輸送量、島外処理量、溶融処理対象となった量、非汚染土壌量、掘削対象外土壌量の実績は、下表のとおりである。

表 3

(単位:t)

区分	24年度	25年度	26年度	試運転～ 26年度 小計	27年度														累計 28年2月末 まで	
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4～2月 小計			
計画範囲内	6,000	7,500	23,800	37,300	0	650	0	1,300	1,950	1,950	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,950	12,350	49,650	
実績	処理計画量	6,000	7,500	23,800	37,300	0	650	0	1,300	1,950	1,950	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,950	12,350	49,650	
	島外処理対象土壌	掘削現場からの搬出量→島外処理確定量	528	0	1,590	2,118	0	0	0	0	0	0	388	0	449	0	0		837	2,955
		輸送量	138	390	1,284	1,812	0	305	0	0	0	0	0	0	388	0	449		1,142	2,955
		委託処理済量	104	424	1,284	1,812	0	305	0	0	0	0	0	0	388	0	449		1,142	2,955
	焼却・溶融処理対象土壌量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0
	掘削対象外土壌	非汚染土壌量	2,572	0	9,273	11,845	0	618	2,181	0	101	4,436	3,786	1,631	2,449	102	1,386		16,688	28,533
地下水浄化対象土壌量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	
計画範囲外	島外処理対象土壌	掘削現場からの搬出量→島外処理確定量	3,698	0	1,534	5,232	0	123	0	0	0	0	260	0	201	0	0		584	5,816
		輸送量	1,158	2,540	1,314	5,012	0	343	0	0	0	0	0	0	260	0	201		804	5,816
		委託処理済量	543	3,155	1,314	5,012	0	343	0	0	0	0	0	0	260	0	201		804	5,816
	焼却・溶融処理対象土壌量	0	0	274	274	0	0	0	0	0	0	0	264	0	0	0	0		264	538
	掘削対象外土壌	地下水浄化対象土壌量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0
	計	島外処理対象土壌	掘削現場からの搬出量→島外処理確定量	4,226	0	3,123	7,349	0	123	0	0	0	0	648	0	650	0	0		1,421
輸送量			1,296	2,930	2,598	6,824	0	648	0	0	0	0	0	0	648	0	650		1,946	8,771
委託処理済量			647	3,579	2,598	6,824	0	648	0	0	0	0	0	0	648	0	650		1,946	8,771
焼却・溶融処理対象土壌量		0	0	274	274	0	0	0	0	0	0	0	264	0	0	0	0		264	538
掘削対象外土壌		非汚染土壌量	2,572	0	9,273	11,845	0	618	2,181	0	101	4,436	3,786	1,631	2,449	102	1,386		16,688	28,533
		地下水浄化対象土壌量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0

- 1) 計画範囲内とは、公害等調整委員会の調査結果と、県が平成 23 年 3～6 月に行った測量結果に基づき推計した直下汚染土壌量である。
- 2) 計画範囲内の処理計画量について、平成 24 年度の 6,000 トンは密度 2.24t/m<sup>3</sup>(サンプル調査結果)、平成 25 年度以降は処理実績から密度を、平成 25、26 年度は 1.68t/m<sup>3</sup>、平成 27 年度は 1.81 t/m<sup>3</sup>としたものである。
- 3) 実績は、実測に基づく量である。
- 4) 輸送量とは、積替え施設に運搬する際にトラックスケールで計量したものである。
- 5) 島外委託処理済量とは、島外処理委託業者から処理完了の報告のあったものである。
- 6) 溶融処理対象量とは、溶融処理を要するダイオキシン等が完了判定基準を超過した汚染土壌である。
- 7) 計画範囲内の掘削対象外土壌のうち、完了判定の基準を満たした土壌量は非汚染土壌量に、また、地下水等の浄化対策で処理を要する VOCs が第二溶出量基準以下の汚染土壌は地下水浄化対象土壌量としている。

④特殊前処理物の処理量

平成28年2月までの特殊前処理物処理施設等における処理実績は、下表4-1及び4-2のとおりである。

表 4-1 (平成15~27年度)

(単位:t)

区分	15年度		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	試運転~ 26年度 小計	27年度 4~2月 小計	累計 28年2月末まで	
	試運転 (4月~ 9月17日)	本格稼働後 (9月18日 ~3月)															
処理 実績	岩石及び コンクリート(t)	9.00	62.75	199.91	74.80	20.60	16.32	80.48	103.51	104.06	266.76	251.36	677.15	962.72	2,829.42	755.42	3,584.84
	金属物(t)	1.16	0.00	18.73	6.61	2.98	1.11	12.33	3.75	8.40	8.99	5.73	7.94	9.59	87.32	18.93	106.25
	ケーブル屑(t)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	30.83	88.42	0.00	0.00	19.57	7.36	146.18	0.00	146.18
	ドラム缶(本)	2	142	102	105	59	0	142	11	56	86	111	96	227	1,139	254	1,393
	可燃物(t)	29.92	188.79	629.46	440.77	281.90	184.81	215.62	153.86	407.89	321.85	366.05	294.54	260.55	3,776.01	116.93	3,892.94
委託 処理 実績	低濃度 PCB 汚染物																
	ラガーローブ(t)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18.00	18.00
	ロール状 廃棄物(t)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.47	2.47
	ロール状廃棄物(t)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9.52	9.52
	空ドラム缶(t)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	167.15	167.15

1) ケーブル屑は、平成20年度までは、溶融不要物としてキルン炉で処理。平成21年度以降は、特殊前処理物処理施設で洗浄後、金属リサイクル業者において有効利用。平成21年及び22年度の処理量は、特殊前処理物処理施設で洗浄完了した時点で計上しており、平成23年度以降は、処理委託の完了報告を受けた時点で計上している。

2) 処理実績のドラム缶本数は、特殊前処理物処理施設で充填作業を行った2重ドラム缶の本数である。

表 4-2 (平成27年度)

(単位:t)

区分		試運転～ 26年度 小計	27年度													累計 28年2月末まで
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4～2月 小計	
処理 実績	岩石及び コンクリート(t)	2,829.42	70.27	84.32	73.95	52.92	69.52	63.40	111.26	63.98	89.07	18.32	58.41		755.42	3,584.84
	金属物(t)	87.32	1.58	0.00	0.29	0.25	1.33	1.97	0.22	5.08	2.73	3.11	2.37		18.93	106.25
	ケーブル屑(t)	146.18	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	146.18
	ドラム缶(本)	1,139	53	27	0	10	39	38	9	1	2	54	21		254	1,393
	可燃物(t)	3,776.01	8.94	18.22	16.73	16.68	7.46	8.51	15.16	3.09	0.00	9.65	12.49		116.93	3,892.94
委託 処理 実績	低濃度 PCB 汚染物															
	ラガーロープ(t)	—	—	—	—	—	—	—	0.33	—	1.35	8.68	7.64		18.00	18.00
	ロール状 廃棄物(t)	—	—	—	—	—	—	—	0.31	0.92	1.24	—	—		2.47	2.47
	ロール状廃棄物(t)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5.56	—	3.96		9.52	9.52
	空ドラム缶(t)	—	—	—	—	—	4.98	37.25	46.77	8.34	25.52	25.37	18.92		167.15	167.15



⑤施設撤去等に伴う処理量

平成28年2月までの施設撤去等に伴う処理実績は、下表のとおりである。

表 5-1(平成15~27年度)

(単位:t)

区分	平成15年度		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	試運転~ 26年度 小計	27年度 4~2月 小計	累計 28年2月末まで	
	試運転 (4月~ 9月17日)	本格稼働後 (9月18日 ~3月)															
処理 実績	アスファルト殻(t)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	101.42	101.42	116.73	218.15	
	コンクリート殻(t)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	231.87	231.87	
	シート類(t)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	79.17	79.17	
	フレコン袋(t)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	45.30	45.30	
	単管(t)	有効利用	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.00	0.00
		委託処理	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9.06	9.06

表 5-2(27年度)

(単位:t)

区分	試運転~ 26年度 小計	27年度												4~2月 小計	累計 28年2月末まで			
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
処理 実績	アスファルト殻(t)	101.42	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	116.73	—	116.73	218.15	
	コンクリート殻(t)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	231.87	—	231.87	231.87	
	シート類(t)	—	—	—	—	—	4.48	42.13	8.54	24.02	—	—	—	—	—	79.17	79.17	
	フレコン袋(t)	—	—	—	—	10.31	34.99	—	—	—	—	—	—	—	—	45.30	45.30	
	単管(t)	有効利用	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.00	0.00
		委託処理	—	—	—	—	—	—	—	—	9.06	—	—	—	—	—	9.06	9.06

⑥副成物の有効利用量

平成28年2月までの副成物の発生量及び販売量など有効利用の実績は、下表6-1及び6-2のとおりである。

表 6-1 (平成15~27年度)

(単位:t)

区 分	15年度		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	試運転～ 26年度 小計	27年度 4～2月 小計	累計 28年2月 まで		
	試 運 転 (4月～ 9月17日)	本格稼働後 (9月18日 ～3月)																
鉄	発生量	10.0	6.2	305.7	323.2	345.5	321.3	368.4	546.1	672.8	643.9	613.3	625.5	661.3	5,443.2	508.4	5,951.6	
	販売量	9.8	0.0	312.1	296.8	333.8	353.3	366.5	383.7	517.6	444.5	423.5	525.3	620.0	4,586.9	448.9	5,035.8	
銅	発生量	161.9	111.1	404.8	450.4	625.7	518.6	492.2	608.6	790.2	850.6	966.4	1,070.9	1,542.5	8,593.9	866.6	9,460.5	
	販売量	161.9	0.0	505.8	457.3	628.9	507.3	502.3	598.7	741.6	781.9	904.6	955.3	1,376.4	8,122.0	757.8	8,879.8	
アルミ	発生量	31.0	57.1	48.3	58.1	58.1	215.1	232.3	409.2	291.4	418.4	494.8	955.3	1,266.3	4,067.8	1,137.1	5,204.9	
	再選別除去量	0.0	0.0	0.0	0.0	158.5	107.7	38.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1,094.6	1,671.4	3,070.4	1,472.5	4,542.9	
	内 訳	鉄(強磁性)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	158.1	149.5	—	107.6	—
		鉄(弱磁性)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	30.2	42.2	—	36.7	—
		スラグ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	906.3	1,479.7	—	1,328.2	—
	再選別アルミ量	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	40.7	40.9	—	28.7	—	
販売量	30.5	0.0	0.0	0.0	15.6	0.0	43.2	28.9	0.0	0.0	0.0	32.8	39.6	190.6	29.6	220.2		
溶融飛灰	発生量	587.0	593.0	2,404.0	2,354.7	1,888.1	2,038.0	2,119.5	2,413.9	2,862.5	2,501.3	2,662.2	2,377.9	2,212.6	27,014.7	2,133.3	29,148.0	
	処理量	587.0	593.0	2,404.0	2,354.7	1,888.1	2,038.0	2,119.5	2,413.9	2,862.5	2,501.3	2,662.2	2,377.9	2,212.6	27,014.7	2,133.3	29,148.0	
溶融スラグ	発生量	1,942.5	9,152.0	32,398.5	34,705.8	32,114.4	31,428.2	30,751.4	34,851.1	33,842.6	34,708.6	33,949.5	38,016.1	34,784.6	382,645.3	34,108.6	416,753.9	
	用	無筋構造物用生コン	0.0	0.0	13,852.8	30,913.3	33,326.5	24,547.9	26,565.5	27,721.4	26,393.3	23,661.8	30,875.9	31,161.4	27,167.5	296,187.3	21,816.1	318,003.4
		送	コンクリート二次製品	0.0	0.0	2,391.9	1,159.8	4,337.7	2,462.4	2,976.2	3,555.5	2,794.4	2,932.8	3,013.9	2,390.7	1,921.3	29,936.6	1,208.0
	合計販売量	0.0	0.0	16,244.7	32,073.1	37,664.2	27,010.3	29,541.7	31,276.9	29,187.7	26,594.6	33,889.8	33,552.1	29,088.8	326,123.9	23,024.1	349,148.0	
処理量	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,503.8	1,503.8	385.4	1,889.2		
粗大スラグ (粗大スラグの販売量は、 溶融スラグの販売量に 含まれる。)	発生量	—	—	—	—	1,068.6	2,322.9	5,977.5	6,590.8	5,471.9	5,779.8	5,681.7	7,983.9	11,861.7	52,738.8	12,467.8	65,206.6	
	販売量	—	—	—	—	(1,068.6)	(2,272.9)	(4,654.7)	(4,664.2)	(3,845.1)	(4,609.2)	(3,146.6)	(6,277.1)	(0)	(30,538.4)	(0)	(30,538.4)	
	処理量	—	—	—	—	—	—	—	1,993.1	2,771.0	1,179.8	1,946.1	1,839.3	11,199.4	20,928.7	11,696.7	32,625.4	
シルト状スラグ	発生量	—	—	—	—	0.0	1,400.0	2,467.3	4,343.3	4,698.1	3,961.7	3,545.2	3,058.6	4,101.3	27,575.6	3,400.5	30,976.1	
	処理量	—	—	—	—	—	—	—	82.0	95.6	61.8	69.3	62.5	54.1	768.4	56.5	824.9	
清掃ダスト	発生量	—	—	—	—	88.2	79.5	175.4	126.0	129.5	61.8	41.7	43.2	46.2	713.6	58.3	771.9	
	処理量	—	—	—	—	0.0	167.7	96.8	126.7	129.5	61.8	41.7	43.2	46.2	713.6	58.3	771.9	
仮置土	発生量	—	—	—	—	—	—	621.0	2,690.0	4,410.4	3,633.5	4,095.9	2,564.6	4,157.4	22,172.8	2,032.5	24,205.3	
	処理量	—	—	—	—	—	—	—	2,961.9	4,590.5	3,762.6	4,008.0	2,531.6	5,357.8	23,212.4	4,351.7	27,564.1	

- 鉄、銅、アルミは一般競争入札により販売。アルミの再選別除去量とは、1次発生したアルミの純度を上げるために、平成18年度～20年度はバッチ処理により、平成25年度からはアルミ選別設備(試運転期間を含む)により、アルミと鉄とスラグに再選別し、除去した鉄とスラグの総量である。なお、再選別除去量について、平成18年度～20年度は鉄とスラグに分けた内訳量を統計していなかったが、25年7月からは鉄とスラグを分けて統計している。また、鉄については、平成25年9月19日以降は強磁性と弱磁性に分けて統計しているが、それ以前(7月～9月18日)は、強磁性にまとめて記載している。再選別した鉄はそのまま副成物(鉄)として取扱い、スラグは、平成18年度～20年度は再溶融処理、平成25年度からはセメント原料として有効利用した。
- 溶融スラグは、上記販売量のほか、試験研究のために2,858.8トン(試運転～平成28年2月)使用した。
- 溶融スラグの処理量とは、鉛含有量が基準値を超過したスラグを粗大スラグと混合し、セメントの原料として有効利用した量である。
- 粗大スラグ、シルト状スラグ、清掃ダストの発生量・販売量・処理量は、処理量対策として再溶融を止め、有効利用を開始した以降の数値を記載している。
- 粗大スラグは、混合比を発生量に対してその75%、50%、25%混合したアルカリシリカ反応性試験を実施し、合格したものを平成18年10月から平成26年3月まで有効利用しており、その販売量は溶融スラグの合計販売量の(内数)である。なお、水分の蒸発等により、発生量と販売量・処理量の計は合致しない。
- 粗大スラグの処理量とは、製砂スラグに混合できない粗大スラグを製煉珪砂代替品(平成21年度)やセメントの原料(平成22年度～)として有効利用した量である。
- 仮置土の処理量とは、ロータリーキルン炉により高温熱処理した仮置土をセメントの原料として有効利用した量である。
- 不溶化ダストは平成19年10月から溶融飛灰と一緒に処理しており、その発生量・処理量とも溶融飛灰に含まれる。

表 6-2 (平成27年度)

(単位:t)

区 分		試運転～ 26年度 小計	27年度													累計 28年2月末 まで	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4～2月 小計		
鉄	発生量	5,443.2	65.5	58.0	40.8	55.5	51.5	45.0	46.7	44.8	50.4	17.0	33.2		508.4	5,951.6	
	販売量	4,586.9	9.9	5.7	9.3	17.8	72.4	17.3	75.4	8.8	189.9	29.0	13.4		448.9	5,035.8	
銅	発生量	8,593.9	147.1	173.3	78.1	77.4	61.9	51.3	64.3	59.4	59.8	20.0	74.0		866.6	9,460.5	
	販売量	8,122.0	0.0	186.8	157.6	89.9	61.8	48.2	58.5	64.0	37.9	0.0	53.0		757.8	8,879.8	
アルミ	発生量	4,067.8	160.5	163.5	53.3	66.3	10.5	26.8	84.6	176.5	229.0	43.4	122.7		1,137.1	5,204.9	
	再選別除去量	3,070.4	133.9	122.4	160.4	132.4	132.9	134.8	137.8	128.4	140.1	126.7	122.6		1,472.5	4,542.9	
	内 訳	鉄(強磁性)		9.9	5.4	10.3	10.9	20.1	18.6	14.0	8.8	2.7	3.8	3.4		107.6	
		鉄(弱磁性)		4.6	1.4	2.8	3.6	5.0	7.3	3.9	3.8	1.3	1.5	1.4		36.7	
		スラグ		119.4	115.6	147.3	118.0	107.8	108.8	119.9	115.9	136.1	121.4	117.8		1,328.2	
	再選別アルミ量		3.0	1.5	3.0	3.0	5.0	5.1	3.5	2.5	0.6	0.6	1.0		28.7		
販売量	190.6	0.0	5.7	0.0	5.9	5.7	5.4	0.0	4.0	3.0	0.0	0.0		29.6	220.2		
溶融飛灰	発生量	27,014.7	194.3	192.4	195.5	216.7	180.2	222.5	241.8	228.7	187.9	77.3	195.9		2,133.3	29,148.0	
	処理量	27,014.7	194.3	192.4	195.5	216.7	180.2	222.5	241.8	228.7	187.9	77.3	195.9		2,133.3	29,148.0	
実績 溶融スラグ	発生量	382,645.3	3,273.0	3,733.2	3,340.8	3,363.7	3,084.3	2,771.4	3,034.2	3,066.9	3,360.7	1,163.4	3,917.2		34,108.6	416,753.9	
	用 途	無筋構造物用生コン	296,187.3	1,801.7	2,103.0	2,427.1	1,552.3	1,438.2	1,955.4	2,289.3	2,247.4	2,479.7	2,185.0	1,337.0		21,816.1	318,003.4
		コンクリート二次製品	29,936.6	126.0	56.6	123.8	121.3	9.6	168.6	104.3	162.0	105.7	162.5	67.6		1,208.0	31,144.6
	合計販売量	326,123.9	1,927.7	2,159.6	2,550.9	1,673.6	1,447.8	2,124.0	2,393.6	2,409.4	2,585.4	2,347.5	1,404.6		23,024.1	349,148.0	
	処理量	1,503.8	—	—	—	385.4	—	—	—	—	—	—	—		385.4	1,889.2	
粗大スラグ (粗大スラグの販売量は、 溶融スラグの販売量に 含まれる。)	発生量	52,738.8	1,679.8	1,401.6	997.3	1,004.5	684.5	1,134.2	1,261.6	1,603.0	1,374.8	350.5	976.0		12,467.8	65,206.6	
	販売量	(30,538.4)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		(0)	(30,538.4)	
	処理量	20,928.7	1,979.7	1,005.5	974.6	1,256.3	1,000.2	1,207.4	293.7	1,692.1	1,739.2	0.0	548.1		11,696.7	32,625.4	
シルト状スラグ	発生量	30,175.5	516.2	397.5	255.5	201.2	211.2	322.0	388.2	468.4	483.4	212.2	474.0		3,929.6	34,105.1	
	処理量	27,575.6	376.2	340.1	377.0	303.4	157.6	144.3	352.1	340.5	304.4	304.1	400.8		3,400.5	30,976.1	
清掃ダスト	発生量	768.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	56.5	0.0		56.5	824.9	
	処理量	713.6	0.0	58.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		58.3	771.9	
仮置土	発生量	22,172.8	349.2	311.7	228.4	142.9	268.7	146.8	193.7	139.4	72.3	50.4	129.0		2,032.5	24,205.3	
	処理量	23,212.4	918.7	0.0	563.2	438.4	422.1	30.7	714.3	334.2	487.0	0.0	443.2		4,351.7	27,564.1	

⑦高度排水処理施設の処理量

平成28年2月までの高度排水処理施設の処理実績は、下表7-1及び7-2のとおりである。

表 7 - 1 (平成15~27年度)

(単位:m<sup>3</sup>)

区分	15年度		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	試運転~ 26年度 小計	27年度 4~2月 小計	累計 28年2月末まで	
	試 運 転 (4月~ 9月17日)	本格稼働後 (9月18日 ~3月)															
計画量	10,075	14,910	22,490	22,945	22,165	22,360	22,360	20,345	21,905	21,905	27,040	26,720	27,360	282,580	24,560	307,140	
実績	処理量	9,660	13,089	22,807	23,074	24,105	23,979	23,073	23,878	23,623	25,519	27,188	26,264	27,557	293,816	26,796	320,612
	海域への放流量	9,515	12,426	20,858	20,054	22,676	21,563	20,406	20,509	20,430	24,288	24,203	23,346	24,503	264,777	24,921	289,698
	散水等への利用量	145	663	1,949	3,020	1,429	2,416	2,667	3,369	3,193	1,231	2,985	2,918	3,054	29,039	1,875	30,914

1) 散水等への利用量とは、処理水を場内の粉塵抑制のための散水や特殊前処理物の洗浄用水としての利用量をいう。

2) 高度排水処理施設の処理量は平成23年11月18日以降、65 m<sup>3</sup>/日から80 m<sup>3</sup>/日に変更した。

表 7 - 2 (平成27年度)

(単位:m<sup>3</sup>)

区分	試運転~ 26年度 小計	27年度													累計 28年2月末まで
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4~2月 小計	
計画量	282,580	2,080	2,480	2,000	2,480	2,480	2,400	2,480	2,400	2,200	2,200	1,360	2,480	24,560	307,140
実績	処理量	293,816	2,455	2,591	2,253	2,608	2,599	2,504	2,590	2,537	2,350	2,282	2,027	26,796	320,612
	海域への放流量	264,777	2,255	2,344	2,087	2,417	2,417	2,336	2,390	2,398	2,215	2,187	1,875	24,921	289,698
	散水等への利用量	29,039	200	247	166	191	182	168	200	139	135	95	152	1,875	30,914

1) 2月の計画量は、定期点検整備のため少なくなっている。

⑧凝集膜分離装置の処理量

平成28年2月までの凝集膜分離装置の処理実績は、下表のとおりである。

表 8 (平成23~27年度)

(単位:m<sup>3</sup>)

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度													累計 28年2月末まで
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4~2月 小計	
計画量	1,970	5,688	3,850	10,400	0	1,250	1,250	1,250	500	1,250	1,250	750	500	0	0	500	8,000	29,908
実績 処理量(西海岸放流量)	2,223	5,690	8,278	1,306	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,266	1,619		2,885	20,382

1)平成24年2月15日から稼働。

2)平成27年度の計画量は、土壌面貯留雨水、貯留トレンチ貯留水等を処理対象とし、平成15年度~平成26年度平均降雨量、集水面積等から計算した。

⑨活性炭吸着塔の処理量

平成28年2月までの活性炭吸着塔の処理実績は、下表のとおりである。

表 9 (平成25~27年度)

(単位:m<sup>3</sup>)

区分	25年度	26年度	27年度													累計 28年2月末まで	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4~2月 小計		
計画量	—	12,000	0	0	4,000	0	0	5,000	4,000	0	0	0	0	0	0	13,000	25,000
実績 処理量(西海岸放流量)	1,192	2,890	0	0	717	0	2,905	2,289	0	0	0	0	0	0		5,911	9,993

1)平成26年3月19日から稼働。

2)平成27年度の計画量は、貯留トレンチ貯留水を処理対象とし、平成15年度~平成26年度平均降雨量、集水面積等から計算した。

⑩油水分離装置の処理量(高度排水処理施設の脱油処理工程の前処理量)

平成28年2月までの油水分離装置の処理実績は、下表のとおりである。

表 10 (26~27年度)

(単位:m<sup>3</sup>)

区分		26年度	27年度												累計 28年2月末 まで	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4~2月 小計
実績	処理量	4.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25.9	80.5		106.4	110.9

1)平成26年2月10日から稼動。

## 2. モニタリング等の実施状況

平成 28 年 3 月 26 日までのモニタリング等の計画及び実績は、下表のとおりである。

表 11

項目			27年度																		備考							
			4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月			1月		2月		3月		
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績		計画	実績	計画	実績	計画	実績	
豊島	環境計測	沈砂池1	放流水水質				○		○		○				○	○										放流の都度実施。年1回全項目		
		沈砂池2	放流水水質	○					○				○							○							年1回全項目	
		高度排水処理施設	排水口水質															○	○									
		掘削・運搬	敷地境界 大気汚染																○	○								気象については、必要に応じて適宜実施
			敷地境界 騒音																○	○								
			敷地境界 振動																○	○								
			敷地境界 悪臭																○	○								
	地下水		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎は水位測定、◎は合わせて水質分析も実施		
	周辺環境モニタリング	水質汚濁			○	○						○	○				○	○				○	○				水質は年4回、底質は年1回（夏季）	
		生態系																									必要に応じて実施	
	作業環境測定	掘削・運搬	常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	
			定期監視			◎	○			○	○			○	○			◎	○						○		●○はダイオキシン類、粉塵、◎は合わせて重金属等も実施	
			個人曝露量			○	○			○	○			○	○			○	○						○		●	
			騒音																									必要に応じて実施
中間保管・梱包施設		常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●		
		騒音	○	○										○	○													
高度排水処理施設	常時監視																				○					定期点検時（年1回程度）		
直島	環境計測	中間処理施設	敷地境界 大気汚染								○	○																
			煙突 (ばいじん)	○	○			○	○			○	○										○	○				
			煙突 (CO)																								連続測定	
			煙突 (ダイキシン類)					○ <sub>2</sub>	○ <sub>2</sub>			○ <sub>1</sub>	○ <sub>1</sub>										○ <sub>2</sub>	○ <sub>2</sub>		○ <sub>1</sub>	● <sub>1</sub>	○ <sub>1</sub> :1号炉煙突、○ <sub>2</sub> :2号炉煙突
	水質汚濁					○																				大雨が長く続き、雨水を海域へ排出する場合（年1回）		
	周辺環境モニタリング	敷地境界 騒音、振動、悪臭																									必要に応じて実施	
		最大着地点 大気汚染											○	○													環境計測の敷地境界（最大着地点）と兼ねる	
		排水口 水質・底質 最大着地点 土壌																									数年（3年を目安）に1回、前回は25年度	
	作業環境測定	中間処理施設	常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
			定期監視							○	○												○	○				
常時監視 (排水処理施設)																							○	○			定期点検時（年1回程度）	
輸送	周辺環境モニタリング	海域 水質汚濁										○	○													水質、底質それぞれ、年1回		

実績欄凡例  
 ○：分析済  
 ●：分析中  
 △：異常時の対応として  
 実施、分析済  
 ▲：異常時の対応として  
 実施、分析中  
 ×：未実施

1) 2月の煙突調査(分析中)については、2月24日に試料採取を行っており、分析に通常1~2か月程度の日数を要する。

### 3. 薬品、ユーティリティの使用実績

平成28年2月までの薬品、ユーティリティの使用実績は、下表12-1-1、12-1-2、12-2-1、12-2-2、12-3-1及び12-3-2のとおりである。

表 12-1-1 掘削・運搬、中間処理施設 薬品、ユーティリティ使用実績 (平成15～27年度)

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	15年度～ 26年度 小計	27年度 4～2月 小計	累計 28年2月末まで	
	本格稼働後 (9月18日 ～3月)															
掘削・運搬	生石灰(kg)	300,000	1,005,000	885,000	795,000	785,000	1,380,000	1,820,000	1,670,000	1,480,000	1,525,000	2,075,000	1,425,000	15,145,000	1,737,000	16,882,000
	炭酸カルシウム(kg)	930,000	4,200,000	3,720,000	4,095,000	4,695,000	3,123,000	3,060,000	1,700,000	3,440,000	3,685,000	4,380,000	7,940,000	44,968,000	9,170,000	54,138,000
	電力量(kwh)	1,688,076	1,726,776	1,570,692	1,535,496	1,537,608	1,510,548	1,492,704	1,560,504	1,643,496	1,624,740	1,625,496	1,574,940	19,091,076	1,479,648	20,570,724
中間処理	炭酸カルシウム(kg)	722,933	3,203,644	3,329,034	2,909,340	3,939,552	2,828,038	4,282,999	4,822,952	5,133,449	5,646,260	4,913,018	1,806,485	43,537,704	626,329	44,164,033
	消石灰(kg)	247,587	880,309	600,619	543,626	555,081	886,134	1,117,691	1,029,852	1,013,929	1,079,730	1,162,609	1,113,470	10,230,637	1,117,233	11,347,870
	活性炭(kg)	237	2,021	8,776	16,299	25,657	28,982	15,829	15,831	15,240	15,645	16,840	6,814	168,171	6,184	174,355
	PAC(kg)	21,508	79,570	85,710	126,550	100,870	134,230	143,100	166,750	132,930	127,190	155,930	129,770	1,404,108	131,170	1,535,278
	重油(kℓ)	2,789	9,520	11,934	13,177	9,924	11,950	12,335	11,694	10,774	11,443	13,279	13,926	132,745	13,600	146,346
	うち、溶融炉(kℓ)	2,730	9,056	11,540	12,831	9,473	11,507	11,474	10,731	9,929	10,493	12,230	12,924	124,918	12,771	137,689
	うち、キルン炉(kℓ)	59	464	394	346	451	443	861	963	845	950	1,049	1,003	7,827	829	8,656
	電力(MWh)	9,258	19,909	20,087	19,976	19,488	19,750	19,910	19,972	20,126	19,906	20,245	19,785	228,412	17,517	245,929
	上水(m <sup>3</sup> )	15,246	55,748	69,303	79,405	65,865	65,790	84,987	71,731	72,628	82,405	87,768	85,864	836,740	78,973	915,713
	純水(t)	16,528	63,164	68,996	65,869	66,120	73,256	65,155	73,835	51,770	62,388	58,542	54,387	720,010	43,842	763,852
	外部蒸気送り量(t)	15,083	59,192	64,522	61,586	58,954	64,505	60,452	64,627	56,004	61,159	56,297	52,038	674,418	41,512	715,930

- 1) 生石灰、炭酸カルシウムなどの主な薬品や重油、電力などのユーティリティの原単位(廃棄物処理量1トン当たりの実績値)は、別紙に示している。
- 2) 掘削・運搬の電力については、平成15年4月からの中間保管・梱包施設/特殊前処理物処理施設の使用電力量であり、凝集膜分離装置(平成24年2月～)及び活性炭吸着塔(平成26年3月～)の電力を含む。
- 3) 平成18年1月から、中間処理施設の排ガス中のダイオキシン類対策として活性炭の噴霧を行っているため、活性炭の使用量が急増している。
- 4) PACについては、自動計測器がなく、毎月購入在庫を持たないことから、購入量を使用量として記載している。
- 5) H22.6.14～H22.8.7の間、上水使用に係る積算流量計故障により、上水使用量(作業・稼働情報)が計測不能となっている。



表 12-1-2 掘削・運搬、中間処理施設 薬品、ユーティリティ使用実績 (平成27年度)

区分	15年度～ 26年度 小計	27年度														累計 28年2月末まで
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4～2月 小計		
掘削・運搬	生石灰(kg)	15,145,000	172,000	105,000	150,000	195,000	120,000	170,000	140,000	185,000	205,000	105,000	190,000		1,737,000	16,882,000
	炭酸カルシウム(kg)	44,968,000	785,000	780,000	995,000	995,000	915,000	700,000	720,000	770,000	985,000	665,000	860,000		9,170,000	54,138,000
	電力量 (kwh)	19,091,076	131,256	130,956	126,264	136,704	138,204	132,504	133,920	135,048	139,032	139,104	136,656		1,479,648	20,570,724
中間処理	炭酸カルシウム(kg)	43,537,704	75,787	146,641	0	0	0	0	0	0	208,100	1,203	194,598		626,329	44,164,033
	消石灰(kg)	10,230,637	114,541	113,806	94,361	96,662	90,484	116,350	126,868	131,233	104,575	38,231	90,122		1,117,233	11,347,870
	活性炭(kg)	168,171	613	621	570	638	576	575	595	612	615	178	591		6,184	174,355
	PAC(kg)	1,404,108	13,190	12,550	10,100	10,030	10,090	12,650	15,690	13,040	15,680	2,520	15,630		131,170	1,535,278
	重油(kℓ)	132,745	1,310	1,328	1,275	1,398	1,228	1,254	1,235	1,278	1,387	440	1,467		13,600	146,346
	うち、溶融炉(kℓ)	124,918	1,229	1,248	1,205	1,295	1,144	1,184	1,157	1,204	1,312	413	1,380		12,771	137,689
	うち、キルン炉(kℓ)	7,827	81	80	70	103	84	70	78	74	75	27	87		829	8,656
	電力(MWh)	228,412	1,700	1,720	1,669	1,720	1,710	1,613	1,574	1,575	1,617	1,104	1,515		17,517	245,929
	上水(m3)	836,740	7,132	8,919	7,760	8,493	8,033	7,872	7,940	7,858	6,830	1,950	6,186		78,973	915,713
	純水(t)	720,010	4,654	4,316	4,399	5,016	4,194	3,933	3,836	3,462	3,698	1,531	4,804		43,842	763,852
	外部蒸気送り量(t)	674,418	4,423	4,065	4,191	4,785	3,952	3,713	3,581	3,222	3,428	1,526	4,627		41,512	715,930

表 12-2-1 中間処理施設 薬品、ユーティリティ使用実績 (平成15~27年度)

(下表の薬品については、年間に数回しか使用していないため、購入量を使用量とみなしている。)

1) ボイラー薬品三種とHCl 試薬については、平成17年度から薬品の原料を購入(下段)し、希釈して使用している。

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	15年度~ 26年度 小計	27年度 4~2月 小計	累計 28年2末まで
	本格稼働後 (9月18日 ~3月)														
苛性ソーダ(kg)	80,790	261,260	180,820	80,530	60,320	80,360	60,200	41,180	20,120	20,450	41,060	102,520	1,029,610	656,040	1,685,650
次亜塩素酸ソーダ(kg)	400	800	200	500	1,400	1,000	1,400	720	1,760	600	2,600	2,400	13,780	2,400	16,180
高分子凝集剤(kg)	550	1,600	1,450	2,150	1,300	1,950	5,100	2,200	5,500	4,250	4,900	2,650	33,600	2,500	36,100
ボイラー清缶剤(kg) 下段は <原料名第3リン酸ソーダ>	100	500	200	—	—	—	—	—	—	—	—	0	800	0	800
	—	—	50	25	25	25	25	25	0	0	50	50	275	25	300
ボイラー脱酸素剤(kg) 下段は <原料名ヒドラジンヒドロード>	400	1,200	200	—	—	—	—	—	—	—	—	0	1,800	0	1,800
	—	—	80	160	280	280	240	360	80	240	200	60	1,980	80	2,060
ボイラー満水保缶剤(kg) 下段は <原料名オキシノンM-608>	100	400	0	—	—	—	—	—	—	—	—	0	500	0	500
	—	—	—	112	128	128	192	224	112	192	128	64	1,280	96	1,376
冷却水薬品 (プラント機器)(kg)	700	1,400	1,000	1,200	2,000	1,400	1,600	1,000	1,600	1,600	1,200	2,400	17,100	1,800	18,900
冷却水薬品 (溶融炉)(kg)	1,400	4,400	3,200	3,200	1,300	1,200	1,000	400	1,800	1,400	2,000	4,000	25,300	3,400	28,700
HCl試薬(l) <原料名フタル酸水素カリウム>	300	150	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	450	0	450
	—	—	10	20	20	0	0	0	0	0	0	0	50	0	50

表 12-2-2 中間処理施設 薬品、ユーティリティ使用実績 (平成27年度)

(下表の薬品については、年間に数回しか使用していないため、購入量を使用量とみなしている。)

区分	15年度～ 26年度 小計	27年度													累計 28年2末まで
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4～2月 小計	
苛性ソーダ(kg)	1,029,610	61,430	40,960	40,940	20,460	40,850	81,880	102,530	61,560	41,060	20,530	143,840		656,040	1,685,650
次亜塩素酸ソーダ(kg)	13,780	400	0	400	0	400	400	0	400	400	0	0		2,400	16,180
高分子凝集剤(kg)	33,600	400	200	200	200	300	100	300	300	200	100	200		2,500	36,100
ボイラー清缶剤(kg) 下段は <原料名第3リン酸ソーダ>	800	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		0	800
	275	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0		25	300
ボイラー脱酸素剤(kg) 下段は <原料名ヒドラジンヒドラード>	1,800	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		0	1,800
	1,980	0	0	0	0	40	0	0	0	40	0	0		80	2,060
ボイラー満水保缶剤(kg) 下段は <原料名オキシノンM-608>	500	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		0	500
	1,280	0	0	32	0	0	0	32	0	32	0	0		96	1,376
冷却水薬品 (プラント機器)(kg)	17,100	200	200	0	200	200	200	200	200	0	200	200		1,800	18,900
冷却水薬品 (溶融炉)(kg)	25,300	400	400	200	400	600	400	400	200	200	200	0		3,400	28,700
HCl試薬(l) <原料名フタル酸水素カリウム>	450	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		0	450
	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	50

表 12-3-1 高度排水処理施設、凝集膜分離装置、活性炭吸着塔 薬品、ユーティリティ使用実績 (平成15~27年度)

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	15年度～ 26年度 小計	27年度 4～2月 小計	累計 28年2月末まで	
高度排水 処理施設	アルカリ剤(苛性ソーダ) (ℓ)	18,930	24,130	15,850	17,860	18,060	17,770	20,310	15,680	17,830	17,550	17,870	14,235	216,075	11,845	227,920
	酸(硫酸) (ℓ)	9,330	10,895	11,772	6,940	10,120	7,025	7,570	7,625	6,210	5,825	6,540	7,625	97,477	6,370	103,847
	凝集剤(塩化第二鉄) (ℓ)	32,375	37,905	27,860	28,305	29,460	28,980	29,320	29,325	29,405	28,785	28,245	23,525	353,490	19,075	372,565
	リン酸 (ℓ)	822	731	325	129	299	228	168	33	29	21	254	174	3,213	252	3,465
	凝集助剤(AP-636) (kg)	7.6	8.6	7.3	6.2	7.3	6.3	8.0	7.0	4.7	6.7	6.2	6.2	82.1	6.4	88.5
	メタノール (ℓ)	10,190	14,290	10,220	6,120	7,090	3,460	4,680	6,390	3,770	3,630	4,500	7,150	81,490	5,700	87,190
	次亜塩素酸ソーダ (ℓ)	118.5	157.0	121.0	54.0	41.0	100.0	128.0	167.0	143.0	195.0	80.5	118.5	1,423.5	152.5	1,576.0
	脱水助剤(CP-360H) (kg)	285	330	135	135	180	180	285	135	195	195	255	135	2,445	135	2,580
	消泡剤(アワセンサー) (kg)	32.4	66.2	55.6	20.0	17.6	18.4	14.0	17.6	16.4	16.4	24.0	13.8	312.4	6.4	318.8
	活性炭(水用) (kg)	1,290	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	29,670	0	29,670
	電力量 (kwh)	766,107	774,317	654,346	647,530	641,025	627,241	631,121	617,767	621,631	608,083	593,285	577,003	7,759,456	563,118	8,322,574
凝集膜 分離装置 (平成23 年度～)	アルカリ剤(苛性ソーダ) (ℓ)	—	—	—	—	—	—	—	—	14	2,246	4,688	985	7,933	1,506	9,439
	酸(硫酸) (ℓ)	—	—	—	—	—	—	—	—	0	53	32	1	86	0	86
	凝集剤(塩化第二鉄) (ℓ)	—	—	—	—	—	—	—	—	303	4,863	6,594	1,256	13,016	2472	15,488
	凝集助剤(AP-636) (kg)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	35	35	545	580
活性炭吸着 塔(平成25 年度～)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	1,300	1,300	3050	4,350

表 12-3-2 高度排水処理施設、凝集膜分離装置、活性炭吸着塔 薬品、ユーティリティ使用実績 (平成27年度)

区分	15年度～ 26年度 小計	27年度													累計 28年2月末まで	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4～2月 小計		
高度排水 処理施設	アルカリ剤(苛性ソーダ) (ℓ)	216,075	1,425	1,595	960	1,150	1,415	1,330	820	870	900	630	750		11,845	227,920
	酸(硫酸) (ℓ)	97,477	415	440	380	525	775	900	690	655	525	535	530		6,370	103,847
	凝集剤(塩化第二鉄) (ℓ)	353,490	1,685	1,850	1,790	1,855	1,950	1,905	1,795	1,760	1,565	1,540	1,380		19,075	372,565
	リン酸 (ℓ)	3,213	22	36	37	35	39	36	7	0	0	13	27		252	3,465
	凝集助剤(AP-636) (kg)	82.1	0.5	0.6	0.7	0.8	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.4	0.5		6.4	88.5
	メタノール (ℓ)	81,490	345	385	490	480	590	610	470	610	560	480	680		5,700	87,190
	次亜塩素酸ソーダ (ℓ)	1,423.5	13.5	31.5	12.0	13.5	13.0	12.5	12.5	12.5	11.0	11.0	9.5		152.5	1,576.0
	脱水助剤(CP-360H) (kg)	2,445	0	15	0	0	15	15	0	15	15	30	30		135	2,580
	消泡剤(アワセンサー) (kg)	312.4	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.8	1.2	0.8	1.6		6.4	318.8
	活性炭(水用) (kg)	29,670	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	29,670
	電力量 (kwh)	7,759,456	52,574	51,120	48,684	53,768	54,012	51,796	53,040	54,300	49,249	48,119	46,456		563,118	8,322,574
凝集膜 分離装置 (平成23 年度～)	アルカリ剤(苛性ソーダ) (ℓ)	7,933	0	0	0	0	0	0	0	0	591	915		1,506	9,439	
	酸(硫酸) (ℓ)	86	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	86	
	凝集剤(塩化第二鉄) (ℓ)	13,016	0	0	0	0	0	0	0	0	1078	1394		2,472	15,488	
	凝集助剤(AP-636) (kg)	35	0	0	0	0	0	0	0	0	115	430		545	580	
活性炭吸着 塔(平成25 年度～)	活性炭 (kg)	1,300	0	0	0	0	0	3,050	0	0	0	0		3,050	4,350	

1) 活性炭吸着塔の活性炭は、入れ替え時点の量である。

#### 4. 豊島廃棄物等の掘削実績(体積)について

平成 28 年 2 月までの廃棄物等の掘削実績は、下表のとおりである。

表 13 (平成15~27年度)

(単位:m<sup>3</sup>)

区分	15年度~ 22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	15年度~ 26年度 小計	27年度					累計
							~7/25	~10/17	~12/26	1~3月	小計	
掘削量	315,159	41,762	57,181	52,750	46,245	513,097	12,509	11,591	8,094		32,194	545,291
うち、公害等調整委員会調査結果外	14,944	3,992	7,895	11,399	8,582	46,812	1,294	2,173	4,160		7,627	54,439

- 1) 公害等調整委員会調査結果外とは、公害等調整委員会調査の廃棄物等区域以外の周辺部廃棄物等、つぼ掘り廃棄物等の量であり、平成 22 年度までの年度ごとの把握は困難なことから、平成 15~22 年度に一括掲載している。
- 2) 平成 22 年度末の周辺廃棄物等掘削量(18,721 m<sup>3</sup>)のうち、H測線東側から掘削した廃棄物量(3,777 m<sup>3</sup>)は、平成 23 年度に掘削したことが判明したため、平成 23 年度の掘削量とした。

#### 5. 見学者数について

平成 28 年 2 月までの豊島、直島それぞれの見学者の実績は、下表のとおりである。

表 14

(単位:人)

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	15年度~ 26年度 小計	27年度												累計 28年2月末 まで		
	本格稼働後 (9月18日 ~3月)													4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4~2月 小計	
実績	豊島側	3,514	5,489	3,240	2,605	1,922	1,876	1,806	1,561	1,754	1,776	1,914	1,593	29,050	66	189	242	197	134	157	192	241	53	54	125		1,650	30,700
	直島側	4,935	7,827	5,297	4,114	3,867	3,471	3,673	3,064	1,768	1,957	1,634	1,834	43,441	101	78	178	229	69	81	527	387	62	48	15		1,775	45,216
	合計	8,449	13,316	8,537	6,719	5,789	5,347	5,479	4,625	3,522	3,733	3,548	3,427	72,491	167	267	420	426	203	238	719	628	115	102	140		3,425	75,916

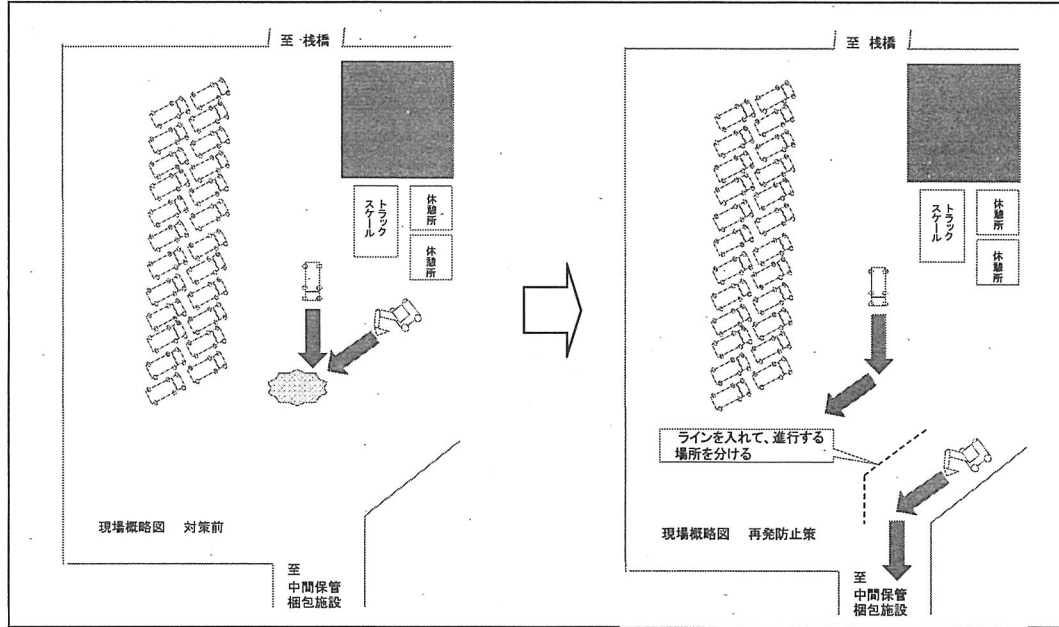
## 6. ひやり・ハット等の状況

平成28年3月26日までのひやり・ハット等の報告は、下表のとおりである。(前回までの報告分を除く。)

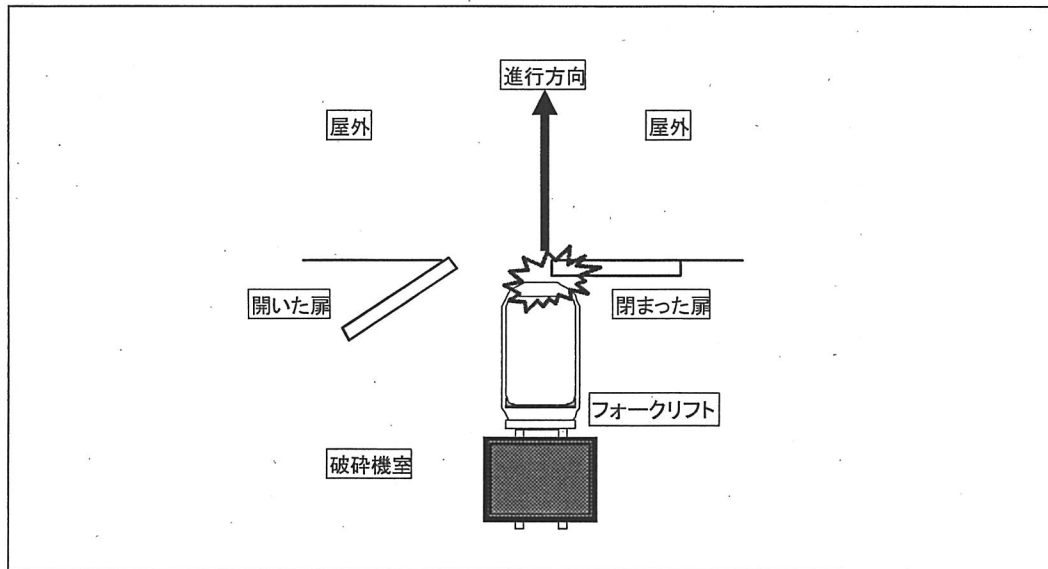
番号	日 時	発生場所等	区 分	内 容	再発防止の対応等
1	H27.12.9	豊島・コンテナトラック待機ヤード	ひやり・ハット	廃棄物運搬船「太陽」に積まれた、空のコンテナダンプトラック（以下「コンテナトラック」という。）を、トラック待機ヤードへ回送している途中に、休憩所付近からバックホーがコンテナトラックの走行経路・停車位置まで進入してきた。	コンテナトラックとそれ以外の車両の走行場所をライン区分するとともに、豊島処分地における車両の安全確保のための規則や制限事項を取りまとめ、事業者間で情報共有を図った。 また、毎週の工程会議で、他の事業者の作業内容等を確認して、どのような危険があるかを事業者間で確認し合うこととした。
2	H28.1.26	直島・中間処理施設	事故	フォークリフトで後進しながらコンテナを運搬していた際、後方確認が不十分であったため、破碎機室の扉に、フォークリフト左後部をぶつけた。	作業を行う各班で再発防止協議会を実施するとともに、リスクアセスメント手順書を作成し、作業を行う上での危険や、その危険を軽減するための措置などについて、再度確認した。また、フォークリフトのサイドミラーに後方確認をする旨の注意喚起の表示を取り付けた。 なお、4月に、作業員を対象に実機を用いた安全教育を実施することとしている。

ひやり・ハット等の状況 参考資料

1 豊島・駐車場



2 直島・中間処理施設





豊島廃棄物等処理事業 原単位表 (その1) 【平成15~26年度】

平成15年度は、平成15年9月18日から平成16年3月31日までの処理実績  
網掛けは処理量1t当りの実績値

Table with 13 columns (Year 15 to 26) and 4 rows (投入量, 生石灰, 高純度, 加圧水)

Table with 2 columns (Year 15 to 26) and 2 rows (搬出量, 仮置土)

Table with 2 columns (Year 15 to 26) and 2 rows (副産物発生量 鉄, 副産物発生量 仮置土処理物)

Table with 2 columns (Year 15 to 26) and 2 rows (消石灰, 苛性ソーダ)

Table with 13 columns (Year 15 to 26) and 2 rows (電力量, 上水使用量)

Table with 13 columns (Year 15 to 26) and 2 rows (アルミ選別設備による再選別, 再選別スラグ)

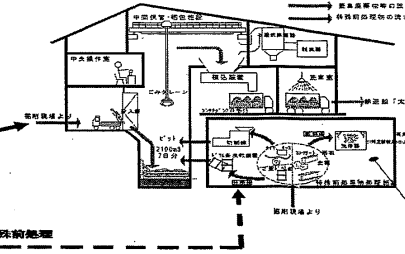


Table with 2 columns (Year 15 to 26) and 2 rows (投入量, 仮置土 ※3)

Table with 2 columns (Year 15 to 26) and 2 rows (ボイラー-外部蒸気送り量, 沸騰炉)

Table with 2 columns (Year 15 to 26) and 2 rows (ボイラー-戻水供給量, 硫黄蓄化量)

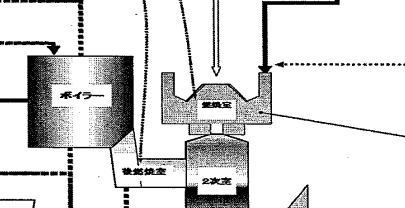


Table with 2 columns (Year 15 to 26) and 2 rows (スラグ発生量, 副産物発生量 溶融灰)

Table with 13 columns (Year 15 to 26) and 2 rows (副産物発生量 鋼, アルミ)

Table with 2 columns (Year 15 to 26) and 2 rows (積込量, 仮置土)

Table with 2 columns (Year 15 to 26) and 2 rows (輸送量, 仮置土)

Table with 13 columns (Year 15 to 26) and 2 rows (処理実績, 稼働日数)

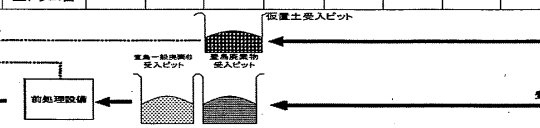


Table with 2 columns (Year 15 to 26) and 2 rows (投入量 ※1, 炭酸カルシウム)

Table with 2 columns (Year 15 to 26) and 2 rows (炭酸カルシウム, 処理量)

Table with 5 columns (Year 15 to 26) and 2 rows (処理量, 合計)

Table with 13 columns (Year 15 to 26) and 2 rows (新性ソーダ, ポイラー-船体塗料)

Table with 13 columns (Year 15 to 26) and 2 rows (副産物発生量 鋼, アルミ)

資料 40・II / 1-2  
平成 28 年 3 月 27 日



豊島廃棄物等処理事業 原単位表 (その3) 【排水処理関係】

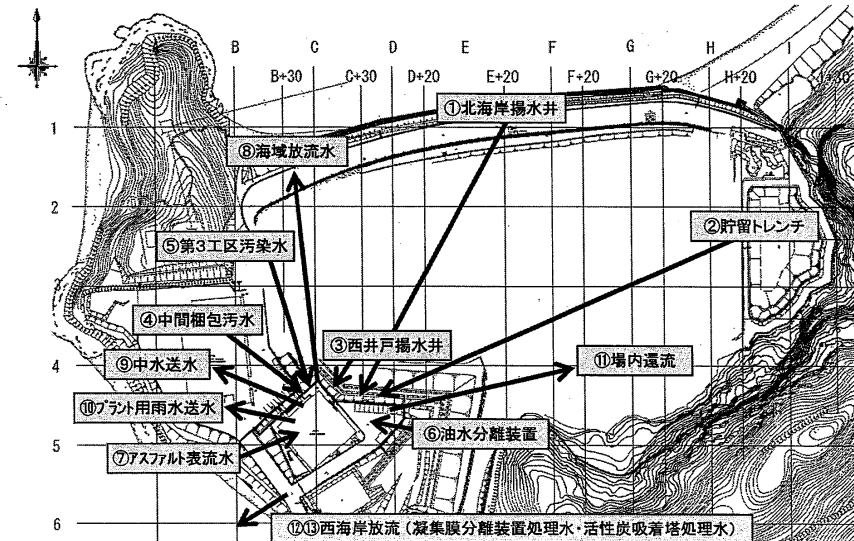
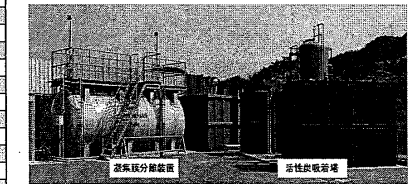
高度排水処理施設

受入水量 m <sup>3</sup>	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度											
													4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1槽 (流入槽)	19,642	27,620	21,731	25,965	14,200	19,048	19,679	24,435	20,363	18,771	51,841	21,835	2,030	1,648	1,778	2,067	2,336	1,674	1,951	2,021	1,591	1,730	1,672	
第5槽 (多目的槽2)	538	6,991	892	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
受入水量合計	39,107	47,275	37,673	49,694	25,430	36,118	33,298	32,130	30,250	25,145	53,987	23,103	2,210	1,757	1,945	2,228	2,469	1,849	2,632	2,437	1,775	1,816	1,881	

送水量 m <sup>3</sup>	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
処理水	20,745	20,858	20,054	22,676	21,563	20,406	20,509	20,430	24,288	24,203	23,346	24,503	2,255
海域放流水	2,724	1,948	3,020	1,429	2,416	2,667	3,369	3,193	1,231	2,985	2,918	3,054	200
中水送水	267	434	440	431	511	493	616	616	565	877	1,109	1,225	134
プラント用雨水送水	17,867	32,560	26,430	28,711	3,005	12,728	11,121	9,366	4,679	342	28,033	0	177
場内還流	39,603	55,801	49,944	53,247	27,495	36,294	35,611	33,605	30,763	28,406	55,407	28,782	2,766
送水量合計	39,603	55,801	49,944	53,247	27,495	36,294	35,611	33,605	30,763	28,406	55,407	28,782	2,766

高度排水処理施設 薬品使用量・活性炭使用量・電力使用量

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度											
													4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
アルカリ剤 (苛性ソーダ)	18,930	24,130	15,850	17,860	18,060	17,770	20,310	15,680	17,830	17,550	17,870	14,235	1,425	1,595	960	1,150	1,415	1,330	820	870	900	630	750	
酸 (硫酸)	9,330	10,895	11,772	6,940	10,120	7,025	7,570	7,625	6,210	5,825	6,540	7,625	415	440	380	525	775	900	690	655	525	535	530	
凝集剤 (塩化第二鉄)	32,375	37,905	27,860	28,305	29,460	28,980	29,320	29,325	29,405	28,785	28,245	23,525	1,685	1,850	1,790	1,855	1,950	1,905	1,795	1,760	1,565	1,540	1,380	
リン酸	1,508	1,662	1,207	1,174	1,229	1,256	1,228	1,241	1,152	1,059	1,075	854	0.886	0.714	0.794	0.711	0.750	0.761	0.693	0.694	0.666	0.675	0.681	
凝集助剤	7.6	8.6	7.3	6.2	7.3	6.3	8.0	7.0	4.7	6.7	6.2	6.2	0.5	0.6	0.7	0.8	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.4	0.5	
メタノール	10,190	14,290	10,220	6,120	7,090	3,460	4,680	6,390	3,770	3,630	4,000	4,000	5,000	7,150	345	385	490	480	590	610	470	560	480	
次亜塩素酸ソーダ	118.5	157.0	121.0	54.0	41.0	100.0	128.0	167.0	143.0	195.0	80.5	118.5	13.5	31.5	12.0	13.5	13.0	12.5	12.5	11.0	11.0	9.5		
脱水助剤	0.0133	0.0145	0.0059	0.0056	0.0075	0.0078	0.0119	0.0057	0.0076	0.0072	0.0097	0.0049	0.0000	0.0058	0.0000	0.0000	0.0058	0.0060	0.0000	0.0059	0.0064	0.0131	0.0148	
消泡剤	32.4	66.2	55.6	20.0	17.6	18.4	14.0	17.6	16.4	16.4	24.0	13.8	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.8	1.2	0.8	1.6	
活性炭使用量	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
電力使用量	766,107	774,318	654,346	647,530	641,025	627,241	631,120	617,767	621,631	608,083	593,285	577,003	52,574	51,120	48,684	53,768	54,012	51,796	53,040	54,300	49,249	48,119	46,456	



凝集膜分離装置

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度																	
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
処理水量 (西海岸放流) (m <sup>3</sup> )	2,223	5,690	8,278	1,306	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,266	1,619

凝集膜分離装置・油水分離装置 薬品使用量

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度																	
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
アルカリ剤 (L)	14	2,246	4,688	985	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	591	915
苛性ソーダ (L/処理m <sup>3</sup> )	0.006	0.395	0.566	0.754	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.457	0.538
酸 (硫酸) (L)	0	53	32	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
凝集剤 (L)	303	4,863	6,594	1,256	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,078	1,394
凝集助剤 (L/処理m <sup>3</sup> )	0.136	0.855	0.797	0.982	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.834	0.820
凝集助剤 (L)	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	115	430
凝集助剤 (L/処理m <sup>3</sup> )	0.000	0.000	0.000	0.027	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.089	0.253

活性炭吸着塔

	25年度	26年度	27年度											
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処理水量 (西海岸放流) (m <sup>3</sup> )	1,192	2,890	0	0	717	0	2,905	2,289	0	0	0	0	0	0

活性炭吸着塔 活性炭使用量

	25年度	26年度	27年度											
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
活性炭使用量 (kg) ※入替え時点	1,300	1,300	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(kg/処理m <sup>3</sup> )	1.09	0.45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-





## 平成28年度事業計画の変更と追加

## 1 運転・維持管理計画（変更案）

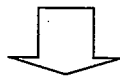
平成28年度の運転・維持管理計画については、第39回管理委員会（H27.12.6開催）で承認されたところであるが、1月の定期点検整備の結果を勘案し、2号溶融炉内整備を、表1のとおり9月から4月に前倒しして行おうとするものである。

今後、平成28年4月2日から3日にかけて3Dレーザー測量を実施する予定であることから、この結果を踏まえて廃棄物等残存量及び処理対象量を推計し、運転・維持管理計画を変更する。

表1 運転・維持管理計画（変更案）

（変更前）

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
運転停止項目	—	・太陽ドック入り ・定期整備・海苔網張りのため太陽休航 ・太陽休航 ・三菱停電													-
1号炉	停止期間及び日数	予備3日		予備3日		予備3日	22日	3日	予備3日	3日	3日	予備3日	3日		
	運転日数	27	31	27	31	28	8	28	27	28	28	25	13	301	
2号炉	停止期間及び日数	予備3日		予備3日		予備3日	22日	3日	予備3日	3日	3日	予備3日	3日		
	運転日数	27	31	27	31	28	8	28	27	28	28	25	13	301	
月別処理量	t	4,920	5,656	4,920	5,656	5,104	1,456	5,104	4,920	5,104	5,104	4,552	2,131	54,627	



（変更後）

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
運転停止項目	—	・定期整備(1号炉) ・定期整備(2号炉) ・海苔網張りのため太陽休航 ・太陽休航 ・三菱停電													-
1号炉	停止期間及び日数	予備3日		予備3日		予備3日	22日	3日	予備3日	3日	3日	予備3日	3日		
	運転日数	27	31	27	31	28	8	28	27	28	28	25	13	301	
2号炉	停止期間及び日数	25日		予備3日		予備3日		3日	予備3日	3日	3日	予備3日	3日		
	運転日数	5	31	27	31	28	30	28	27	28	28	25	13	301	
月別処理量	t	2,912	5,656	4,920	5,656	5,104	3,464	5,104	4,920	5,104	5,104	4,552	2,131	54,627	

## 2 副成物の有効利用計画（案）の追加

平成28年度における溶融飛灰や溶融スラグなどの副成物の有効利用計画（案）は、これまでの実績を踏まえ、表2のとおり作成した。

## 3 環境計測、周辺環境モニタリング及び作業環境測定計画（案）の追加

平成28年度における環境計測、周辺環境モニタリング及び作業環境測定計画（案）は、これまでの調査結果などを踏まえ、表3のとおり作成した。

表2 副成物の有効利用計画(案)

(単位:t)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成27年度の実績(2月まで)
豊島側	金属類	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0	8	実績値 18.93 t/年
直島側	鉄	27	49	43	49	45	29	45	43	45	45	40	19	479	約 8.05 kg/t(処理量)
	銅	44	86	75	86	77	52	77	75	77	77	69	32	827	約 15.2 kg/t(溶融処理量)
	アルミ	1	3	2	3	3	2	3	2	3	3	2	1	28	約 0.50 kg/t(溶融処理量)
	溶融飛灰	109	211	183	211	190	129	190	183	190	190	170	79	2,035	約 37.3 kg/t(溶融処理量)
	溶融スラグ	1,736	3,372	2,933	3,372	3,043	2,065	3,043	2,933	3,043	3,043	2,714	1,271	32,568	約 0.596 t/t(溶融処理量)
	粗大スラグ	635	1,233	1,073	1,233	1,113	755	1,113	1,073	1,113	1,113	992	465	11,911	約 218 kg/t(溶融処理量)
	シルト状スラグ	200	389	338	389	351	238	351	338	351	351	313	146	3,755	約 68.7 kg/t(溶融処理量)
	清掃ダスト	27	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0	0	54	約 0.99 kg/t(溶融処理量)
	仮置土	157	163	157	163	163	41	163	157	163	163	146	58	1,694	約 0.342 t/t(高温熱処理量)

- 1) 副成物有効利用計画量は、それぞれの発生量である。
- 2) 鉄、銅、アルミは一般競争入札により販売する。
- 3) 粗大スラグは、平成18年10月から有効利用しており、製砂スラグに混合できないものは、溶融炉立下げ用スラグとして再溶融、又はセメントの原料、製錬珪砂代替品等として有効利用する。
- 4) シルト状スラグは、平成19年3月からセメントの原料として有効利用している。
- 5) 清掃ダストは、平成19年8月から製錬珪砂代替品等として有効利用している。
- 6) 仮置土は、平成21年2月からロータリーキルン炉により高温熱処理し、セメントの原料として有効利用している。
- 7) アルミ屑は、選別設備によりアルミ、鉄、スラグに再選別しており、有効利用計画量は再選別後の量である。

表3 環境計測、周辺環境モニタリング及び作業環境測定計画（案）

項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
豊島	環境計測	沈砂池1, 2	放流口水質	○			○		○		○			沈砂池1については、放流の都度実施		
		高度排水処理施設	排水口水質							○						
		凝集膜分離装置	排水口水質												必要に応じて実施	
		活性炭処理装置	排水口水質												必要に応じて実施	
		掘削・運搬	敷地境界 大気汚染							○						気象については、必要に応じて適宜実施
			敷地境界 騒音							○						
			敷地境界 振動							○						
			敷地境界 悪臭							○						
	周辺環境モニタリング	地下水	◎	◎	◎	○	◎ <small>全域調査</small>	○	◎	◎	◎	○	◎ <small>全域調査</small>	○	◎は水位測定、◎は合わせて水質分析も実施、	
		水質汚濁		○			○			○		○			水質は年4回、底質は年1回（夏季）	
		生態系			○ <small>アワモ樹</small>								○ <small>ガラクモ樹</small>		必要に応じて実施	
	作業環境測定	掘削・運搬	常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
			定期監視		◎		○		○		◎		○		○	◎はダイオキシン類、粉塵、◎は合わせて重金属等も実施
			個人暴露量				○		○		○		○		○	
騒音															必要に応じて実施	
中間保管・梱包施設		常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		騒音	○						○							
高度排水処理施設	常時監視										○			定期点検時（年1回程度）		
直島	環境計測	中間処理施設	敷地境界 大気汚染 煙突 (ばいじん)		○	○					○		○			
			煙突 (CO)						← 連続測定 →							
			煙突 (ダイオキシン類)				○ <sub>2</sub>		○ <sub>1</sub>				○ <sub>2</sub>	○ <sub>1</sub>		
			水質汚濁													大雨が長く続き、雨水を海城へ排出する場合（年1回）
			敷地境界 騒音、振動、悪臭													必要に応じて実施
			最大着地点 大気汚染					○								環境計測の敷地境界（最大着地点）と兼ねる
	周辺環境モニタリング	排水口 水質・底質					○									
		最大着地点 土壌					○								数年（3年を目安）に1回、前回は25年度	
		作業環境測定	中間処理施設	常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
				定期監視			○									
輸送	周辺環境モニタリング	海城 水質汚濁	常時監視 (排水処理施設)								○			定期点検時（年1回程度）		
			騒音					○				○				



運転・維持管理計画 (変更案)

計画名	項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	適用	
掘削	作業日数	日	25	26	25	26	26	25	0	0	0	0	0	0	153	適用	
	掘削量	t	7,770	7,770	7,770	7,770	7,770	7,770	0	0	0	0	0	0	46,620		
中間保管・梱包	作業日数	日	22	21	22	23	21	22	22	21	23	20	21	10	248	適用	
	積込量	t	3,720	6,809	5,968	6,809	6,191	3,998	6,191	5,968	6,191	6,191	5,522	2,556	66,113		
特殊前処理	作業日数	日	21	18	22	22	21	19	21	19	22	19	20	0	224	適用 常時吐出容量の50%(700t)程度の廃棄物等を確保しておくものとする。	
	処理作業量	岩石 コンクリート	t	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	8	0		208
		金属物	t	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0		8.3
		ケーブル屑	t	0	0	0	3.5	0	0	0	0	0	0	0	0		4
		ドラム缶	本	0	30	0	0	30	0	0	30	0	0	30	0		120
		可燃物	t	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28		0
陸上・海上輸送	運航日数	日	12	21	18	21	19	12	19	18	19	19	17	8	203	適用 (豊島での溶融助剤添加量を含む。)	
	輸送量	t	3,720	6,809	5,968	6,809	6,191	3,998	6,191	5,968	6,191	6,191	5,522	2,556	66,113		
計画名	項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	適用	
中間処理	運転停止項目	—	・定期整備(1号炉)      ・定期整備(2号炉)      ・海苔網張りのため太陽休航      ・太陽休航      ・三菱発電													適用 ・3/1-3/31 酸素供給無し(三菱定修) ・上記以外に、トラブルに伴う酸素供給無しでの運転を1割程度見込む。 (平成28年4月～平成29年2月末で31日)	
	1号炉	停止期間及び日数	日	予備3日		予備3日		予備3日	22日	3日	予備3日	3日	3日	予備3日	3日		
		運転日数	日	27	31	27	31	28	8	28	27	28	28	25	13		301
	2号炉	停止期間及び日数	日	25日		予備3日		予備3日		3日	予備3日	3日	3日	予備3日	3日		
		運転日数	日	5	31	27	31	28	30	28	27	28	28	25	13		301
	稼働日数	2炉運転日数	日	5	31	27	31	28	8	28	27	28	28	25	13		279
		1炉運転日数	日	22	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0		44
	月別処理量	t	2,912	5,656	4,920	5,656	5,104	3,464	5,104	4,920	5,104	5,104	4,552	2,131	54,627		適用 ・処理量84t/炉・日 ・処理量92t/炉・日(酸素富化時) (直島町一廃施設稼働に伴う処理量増を含む)
	キルン炉稼働日数	日	27	28	27	28	28	7	28	27	28	28	25	10	291		
	キルン炉処理量	t	459	476	459	476	476	119	476	459	476	476	425	170	4,947		処理量17t/炉・日
	中間処理量	t	3,371	6,132	5,379	6,132	5,580	3,583	5,580	5,379	5,580	5,580	4,977	2,301	59,574		
	ユーティリティの使用量	重油	kl	782	1,441	1,262	1,441	1,309	850	1,309	1,262	1,309	1,309	1,168	598		14,038
電力		Mwh	988	1,797	1,576	1,797	1,635	1,050	1,635	1,576	1,635	1,635	1,458	674	17,455	平成26年度の実績値 0.293MWh/廃棄物処理1t(H26実績)	
上水		m³	4,338	7,892	6,923	7,892	7,181	4,611	7,181	6,923	7,181	7,181	6,405	2,961	76,672	1.287 m³/廃棄物処理1t(H26実績)	
純水		t	2,697	4,906	4,303	4,906	4,464	2,866	4,464	4,303	4,464	4,464	3,982	1,841	47,659	0.80t/廃棄物処理1t(H26実績)	
外部蒸気送り量		t	2,461	4,779	4,157	4,779	4,313	2,927	4,313	4,313	4,157	4,313	4,313	3,846	1,801	46,160	0.845t/廃棄物処理1t(H26実績) (溶融処理に限る。)
セメント原料化処理	掘削量	t	650	0	0	650	0	0	382	0	0	0	0	0	1,682	適用 土壌の含水率は掘削時から一定とした。	
	運搬量	t	650	0	0	650	0	0	382	0	0	0	0	0	1,682		
	処理量	t	650	0	0	650	0	0	382	0	0	0	0	0	1,682		
高度排水処理施設	運転停止項目	—	・薬品洗浄      ・定期整備工事      ・正月      ・薬品洗浄      ・定期整備													適用 処理量 80m³/日	
	停止期間及び日数	日															
	運転日数	日	26	31	25	31	30	31	30	27.5	27.5	17	31	338			
	処理量	m³	2,080	2,480	2,000	2,480	2,480	2,400	2,480	2,400	2,200	2,200	1,360	2,480	27,040		
凝集膜分離装置	運転日数	日	0	25	25	25	10	25	25	15	10	0	0	0	170	適用 処理量 50m³/日	
	処理量	m³	0	1,250	1,250	1,250	500	1,250	1,250	750	500	0	0	500	8,500		
活性炭吸着塔	運転日数	日	0	0	20	0	0	25	20	0	0	0	0	0	65	適用 処理量 200m³/日	
	処理量	m³	0	0	4,000	0	0	5,000	4,000	0	0	0	0	0	13,000		



地下水	北海道1地点(F1西)、西海岸2地点(A3、B5)	水素イオン濃度(pH)、生物化学的酸素要求量(BOD)、化学的酸素要求量(COD)、n-ヘキサン抽出物質(油分等)、大腸菌群数、全窒素、全燐、7種の水銀化合物、水銀及び7種の水銀その他の水銀化合物、鉛及びその化合物、鉛及びその化合物、六価クロム化合物、砒素及びその化合物、シアン化合物、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、塩化ビニルモノマー、1, 2-ジクロロエタン、1, 1-ジクロロエチレン、1, 2-ジクロロエチレン、1, 1, 1-トリクロロエタン、1, 1, 2-トリクロロエタン、1, 1, 2-ジクロロプロパン、ベンゼン、トルエン、キシレン、フェノール類、セレン及びその化合物、有機燐化合物、7素、砒素、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、1, 4-ジニトロベンゼン、7種の有機溶剤、電気伝導率、ニッケル、モリブデン、アモニウム、グアイコリン類	年4回 (春、夏、秋、冬)	変更なし	
	観測井8地点(C1北、C1南、C3北、C3南、DE1、F1、F1東、HI1)	トリクロロエチレン、塩化ビニルモノマー、1, 2-ジクロロエチレン、ベンゼン、1, 4-ジニトロベンゼン、n-ヘキサン抽出物質(油分等)	年2回(夏、冬)	変更なし	
	(B+40, 2+10)地点付近の観測井2本揚水井2本(C, 2+40)地点付近の観測井3本揚水井2本(C, 3+10)地点付近の観測井1本揚水井1本	トリクロロエチレン、塩化ビニルモノマー、1, 2-ジクロロエチレン、ベンゼン、1, 4-ジニトロベンゼン、n-ヘキサン抽出物質(油分等)	年6回	変更なし	
	滞留タンクからの地下水排除工	<del>化学的酸素要求量(COD)、ベンゼン、1, 4-ジニトロベンゼン、全有機炭素(TOC)</del>	年1回	第21回及び第22回排水・地下水等対策検討会において、浄化が確認されたので測定を取り止める。	
周辺環境モニタリング	水質	周辺地先海域3地点	水素イオン濃度(pH)、化学的酸素要求量(COD)、溶存酸素量(DO)、n-ヘキサン抽出物質(油分等)、大腸菌群数、全窒素、全燐、7種の水銀化合物、水銀及び7種の水銀その他の水銀化合物、鉛及びその化合物、鉛及びその化合物、六価クロム化合物、砒素及びその化合物、シアン化合物、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1, 2-ジクロロエタン、1, 1-ジクロロエチレン、1, 2-ジクロロプロパン、1, 1, 1-トリクロロエタン、1, 1, 2-トリクロロエタン、1, 3-ジクロロプロパン、ベンゼン、トルエン、キシレン、フェノール類、セレン及びその化合物、有機燐化合物、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、1, 4-ジニトロベンゼン、塩化物イオン、全亜鉛 ニッケル、モリブデン、アモニウム、グアイコリン類	年4回 (春、夏、秋、冬)	変更なし
		海岸感潮域3地点	水素イオン濃度(pH)、化学的酸素要求量(COD)、n-ヘキサン抽出物質(油分等)、大腸菌群数、全窒素、全燐、7種の水銀化合物、水銀及び7種の水銀その他の水銀化合物、鉛及びその化合物、鉛及びその化合物、六価クロム化合物、砒素及びその化合物、シアン化合物、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1, 2-ジクロロエタン、1, 1-ジクロロエチレン、1, 2-ジクロロプロパン、1, 1, 1-トリクロロエタン、1, 1, 2-トリクロロエタン、1, 3-ジクロロプロパン、ベンゼン、トルエン、キシレン、フェノール類、セレン及びその化合物、有機燐化合物、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、1, 4-ジニトロベンゼン、塩化物イオン、全亜鉛 ニッケル、モリブデン、アモニウム、グアイコリン類	年4回 (春、夏、秋、冬)	変更なし
	底質	周辺地先海域2地点	水素イオン濃度(pH)、化学的酸素要求量(COD)、硫化物、強熱減量、n-ヘキサン抽出物質(油分等)、総水銀、鉛、砒素、シアン、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、有機燐化合物、銅、亜鉛、ニッケル、総クロム、総鉄、総マンガン、グアイコリン類	年2回(夏、秋)	変更なし
		海岸感潮域3地点	化学的酸素要求量(COD)、硫化物、強熱減量、n-ヘキサン抽出物質(油分等)、総水銀、鉛、砒素、シアン、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、有機燐化合物、銅、亜鉛、ニッケル、総クロム、総鉄、総マンガン、有機燐化合物、グアイコリン類	年1回(夏)	変更なし
	生態系	アマモ場5地点、ガラモ場3地点	藻類の繁殖状況(生育密度、葉長)、葉上付着動物、葉上付着陸藻、水温、塩分、透明度、栄養塩類 出現魚類(北海道アマモ場)	-	今年度実施 (別添のとおり)

1-2. 直島

	区分	計測地点	計測項目	平成27年度の頻度	平成28年度実施方針
環境計測	大気汚染	敷地境界※1	浮遊粒子状物質、二酸化硫黄、窒素酸化物、酸化炭素、光化学オキシダント	年1回(夏)	変更なし
		煙突※2	ばいじん、硫黄酸化物、窒素酸化物、塩化水素、鉛及びその化合物、鉛及びその化合物、水銀及びその化合物、砒素及びその化合物、ニッケル及びその化合物、クロム及びその化合物	年6回	変更なし
			グアイコリン類	1, 2号溶融炉 年2回 (1号煙突:夏、冬 2号煙突:夏、冬)	変更なし
	水質	中間処理施設の雨水集水設備の排出口	水素イオン濃度(pH)、浮遊物質(SS)、生物化学的酸素要求量(BOD)、化学的酸素要求量(COD)、n-ヘキサン抽出物質(油分等)、大腸菌群数、全窒素、全燐、7種の水銀化合物、水銀及び7種の水銀その他の水銀化合物、鉛及びその化合物、鉛及びその化合物、六価クロム化合物、砒素及びその化合物、シアン化合物、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1, 2-ジクロロエタン、1, 1-ジクロロエチレン、1, 2-ジクロロプロパン、1, 1, 1-トリクロロエタン、1, 1, 2-トリクロロエタン、1, 3-ジクロロプロパン、ベンゼン、トルエン、キシレン、フェノール類、セレン及びその化合物、有機燐化合物、7素、砒素、硝酸性窒素、亜硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、1, 4-ジニトロベンゼン、フェノール類、銅、亜鉛、溶解性鉄、溶解性マンガン、クロム、モリブデン、アモニウム、グアイコリン類(参考としてマンガンと鉛について分析を実施する。)	年1回 大雨が長く続き雨水を海域へ排出する場合	変更なし
			水素イオン濃度(pH)、化学的酸素要求量(COD)、浮遊物質(SS)	大雨時に雨水を海域へ排出する都度	変更なし
		騒音	敷地境界	L50、L5、L95、Leq	必要に応じて適宜実施
振動	敷地境界	L50、L10、L90	必要に応じて適宜実施	変更なし	
悪臭	敷地境界	アセトン、酢酸エチル、硫化水素、硫化水素、二硫化水素、トリクロロエチレン、アセトアルデヒド、プロピルアルデヒド、メチルメチルケトン、イソブチルアルデヒド、メチルイソブチルアルデヒド、イソブチルアルデヒド、イソブチルアルコール、酢酸エチル、酢酸メチル、酢酸プロピル、酢酸ブチル、酢酸ペンチル、酢酸ヘキシル、酢酸オクチル、酢酸デシル、酢酸ドデシル、酢酸ステアрил、酢酸ラウリル、酢酸ミリスチル、酢酸パルミチル、酢酸ステアリン酸、イソステアリン酸、イソオクタリン酸	必要に応じて適宜実施	変更なし	

周辺環境モニタリング	大気汚染	敷地境界（最大着地点）	浮遊粒子状物質、二酸化硫黄、窒素酸化物、一酸化炭素、光化学オキシダント <sup>※3</sup>	年1回（夏）	変更なし
			ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン	年1回（夏）	変更なし
			ダスト類	年1回（夏）	変更なし
			鉛及びその化合物、鉛及びその化合物、水銀及びその化合物、砒素及びその化合物、ニッケル及びその化合物、クロム及びその化合物	年1回（夏）	変更なし
	水質	周辺地先海域	水素イオン濃度(pH)、化学的酸素要求量(COD)、溶存酸素量(DO)、n-ヘキサン抽出物質(油分等)、大腸菌群数、全窒素、全リン、7メチル水銀化合物、水銀及び7メチル水銀その他の水銀化合物、トリシロ及びその化合物、鉛及びその化合物、六価クロム化合物、砒素及びその化合物、シアン化合物、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロパン、ベンゼン、トルエン、キシレン、ネオペンタン、セレン及びその化合物、有機リン化合物、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、1,4-ジオキサン、ニッケル、モリブデン、アチレン、ダスト類、全亜鉛	年1回（夏）	変更なし
底質	周辺地先海域	水素イオン濃度(pH)、化学的酸素要求量(COD)、硫化物、強熱減量、n-ヘキサン抽出物質(油分等)、総水銀、トリシロ、鉛、砒素、シアン、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、有機リン化合物、銅、亜鉛、ニッケル、総クロム、総鉄、総マンガノ、ダスト類	年1回（夏）	変更なし	
土壌	最大着地点	トリシロ及びその化合物、鉛及びその化合物、水銀及びその化合物、砒素及びその化合物、ニッケル及びその化合物、クロム及びその化合物、ダスト類	数年（3年を目安）に1回	変更なし	

### 1-3. 海上輸送

区分	計測地点	計測項目	平成27年度の頻度	平成28年度実施方針
周辺環境モニタリング	水質 豊島、B1、直島の計3地点	水素イオン濃度(pH)、化学的酸素要求量(COD)、溶存酸素量(DO)、n-ヘキサン抽出物質(油分等)、大腸菌群数、全窒素、全リン、7メチル水銀化合物、水銀及び7メチル水銀その他の水銀化合物、トリシロ及びその化合物、鉛及びその化合物、六価クロム化合物、砒素及びその化合物、シアン化合物、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロパン、ベンゼン、トルエン、キシレン、ネオペンタン、セレン及びその化合物、有機リン化合物、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、1,4-ジオキサン、塩化物イオン、全亜鉛	2地点で年1回、B1は実施しない <sup>※4</sup> (夏)	変更なし
		ニッケル、モリブデン、アチレン、ダスト類	2地点で年1回、B1は実施しない <sup>※4</sup> (夏)	変更なし
	底質 豊島、B1、直島の計3地点	水素イオン濃度(pH)、化学的酸素要求量(COD)、硫化物、強熱減量、n-ヘキサン抽出物質(油分等)、総水銀、トリシロ、鉛、砒素、シアン、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、有機リン化合物、銅、亜鉛、ニッケル、総クロム、総鉄、総マンガノ、ダスト類	2地点で年1回、B1は実施しない <sup>※4</sup> (夏)	変更なし

※1 現在、敷地境界としての調査地点は「オの神」である。

※2 関係法令に基づく計測頻度；「大気汚染防止法」に基づきばいじん、窒素酸化物、塩化水素を年2回以上、「ダスト類対策特別措置法」に基づきダスト類を年1回以上計測する必要がある。

※3 大気汚染自動測定項目とはSPM、SOX、NOX、CO、Ox。環境計測の大気汚染分と兼ねる。

※4 B1は公共用水域の監視測定が実施されていることから実施しない。

### 2. 豊島関係調査

調査種類	平成27年度の頻度	平成28年度実施方針
特殊前処理物洗浄完了判定	全数のうち抽出して実施	変更なし
掘削完了判定	その都度	変更なし
ドラム缶内容物調査	その都度	変更なし
廃棄物等の掘削前VOCsガス調査	その都度	変更なし
地下水概況・詳細調査(つぼ掘り含む)	その都度	変更なし

### 3. 中間処理施設運転検査

調査種類	平成27年度の頻度	平成28年度実施方針
均質化確認検査	三成分4検体×1回/ロット、 成分分析4検体×1回/ロット、 溶流度4検体×1回/ロット	変更なし
処理対象物試験 (一般廃棄物、豊島廃棄物)	種類組成等2検体×1回/年	変更なし
副成物試験	スラグ出荷検査1検体×1回/週、 飛灰出荷検査1検体×1回/50回/送液(約2ヶ月)	変更なし